

ヒューマンウェアイノベーション博士課程プログラム学生革新企画

HW マナー講座

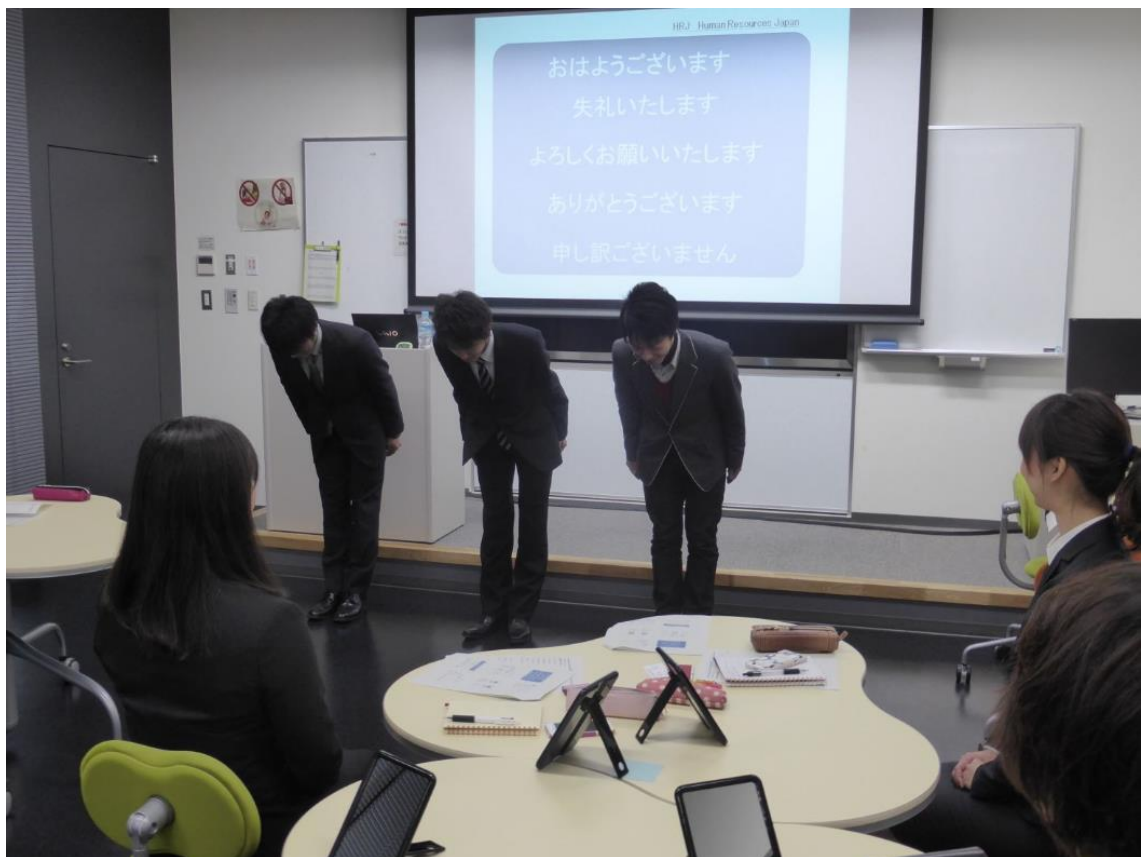
開催期間: 2014年3月12日

代表者氏名:

澤田 莉沙

計画立案メンバ氏名:

澤田 莉沙、横田 将志、日浅 夏稀



企画報告書

概要

プロのマナー講師を招聘し、独学では学べないマナースキルをシチュエーションワークなどの実践演習を通して学んだ。本企画ではまず、“マナーとは何か”といった概念的なことから始まり、マナーを身につけるための日々気をつけるポイントについての講義が行われた。その後、身だしなみ・表情・声・態度・挨拶などといった、普段生活する中であまり意識することができていないマナーの姿勢について学んだ。具体的には、鏡を使っての表情練習や発声練習、挨拶コンテストなどといった実践ワークを取り入れて、常にマナーに対して意識を高くもつためのレッスンを行った。基本的なマナー姿勢について学んだ後、メールや電話といった連絡手段で気をつけるポイントや、席次などの社会一般的なビジネスマナーについて教わった。最後にはシチュエーションワークを取り入れ、実際に私たち研究者が経験する機会が多い状況を設定し、そこで全体を通したマナーを実践することで、より応用が利くマナースキルを身につけた。講座全体を通して、いつでも質問可能な形式をとっており、参加学生がマナーに対して疑問を抱いたときは、その場で質問をしてマナー講師から回答を得ることができた。

参加学生は 11 人全員が意欲的な態度で講座に臨み、終始良い雰囲気の中で講座が進められた。学生達にとって今回の企画は、今までしっかりと考えることのなかったマナーに対して、改めて意識をする良い機会となっただろう。今まで知る機会がなかった視点を獲得ことができ、リーディング学生としての視野が広がった。それぞれが今回得たマナースキルを基に、日々のマナーに対する姿勢を改め、今後のアウトリーチ活動や企業との交流等のシーンで活用することが望まれる。

反省点・今後の改善点

今回の企画の反省点としては、(1) 年度末に企画を立ち上げたため、予算の執行に手間取ったこと、(2) 講座の内容に関して、スケジュールの時間が押してしまい、実践演習があまり丁寧でできなかったことが挙げられる。(1)については、学生革新企画のマニュアルに、ある程度の開催可能時期や予算についての詳細な記載を求めたい。(2)について、招待講演となると、どうしてもその内容が講師に依存してしまうため、事前にもう少し事細かに内容の打ち合わせを行っておけばよかったのではないかと考える。

参加報告書

企画名： HW マナー講座

開催期間： 2014/3/12 (水)

※ ニュースレター原稿形式は別途添付 (参加報告書_ニュースレター原稿形式.doc)

--以下、今回の参加報告書として提出された学生の感想 (順不同)

中西惇也 (基礎工)

内容としては講義形式でしか学べないと言われてれば独学でも十分に得られるレベルであったが、学習・実習の機会を設けることができたという点で有意義であったと思う。マナーはその人の社会的熟成度を測る1つの指標であり、コミュニケーションの中でなくてもいいが、あれば様々なチャンスを得られるきっかけを生む可能性を秘めている。実際に学んだマナーを実践する機会があり、ようやく社会人として対等な立場として話すという社会人コミュニケーションのスタート地点に立ったのだなと感じました。

有本庸浩 (基礎工)

マナーとは、多様な価値観がある社会の中で、コミュニケーションを円滑にし、信頼関係を育むための重要な共通認識だと考えています。融合研究活動を推進するために、ヒューマンウェアでは、様々な分野、所属の人との交流を盛んに行ってきました。適切なビジネスマナーを習得することによって、自分の活動できるフィールドをさらに広げられると考え、今回のマナー研修に参加しました。研修では、全ての基本となるあいさつから始まり、姿勢や名刺交換など、より実践的な指導を受けることが出来ました。今回学んだことをしっかりと身につけ、今後の活動に活かしていきたいと思います。

藤井翔平 (情報科学)

"3 時間という短い時間でしたが、非常に実践的かつ具体的な内容でとても勉強になりました。特にシチュエーションワークとして挙げられていた状況設定が、我々学生が陥るであろう状況に特化していたことが具体性を高めていてよかったと思いました。今回のビジネスマナーだけでなく、英語やプレゼンなど専門以外に必要な能力を高める企画を今後も積極的に企画すべきだと思います。"

フチカー（情報科学）

本講座に参加して、日常的のマナーから会議やミーティングのマナーまでのとても幅広いことを教えていただいてよかったですと思います。様々な大事なことを教えていましたが、その中で、名刺の扱い方や渡すマナーの方が、名刺とは人を代表とされる物という意味で私に面白かったです。本講座のもう 1 つの特徴は、授業中、ロールなどになって実際に試したところでした。マナーとは人間のコミュニケーションに必須となることですので、これから本講座で教えていただいたことをぜひ身に付けていきたいと考えています。

古林太郎（生命機能）

特殊な生活環境から、どうしても我々は同年代の社会人と比べて世間ずれしていく部分があると思います。しかし、適切な情報発信のためにも常識やマナーは我々には必須のもの。そういった意味で、前もってマナーを学び意識を高める本企画は非常に有用なものでした。

講義だけではなく、実践の形で自分の行動を確認する形式によって頭に・体に残るマナー学習ができました。また、何より「マナーは1日にして成らず」ということで、自分を省みて毎日少しずつでも気を付けていこう、という意識が生まれた点が一番大きな収穫であったのでは、と思っています。

日浅 夏希（情報科学）

当講習では、これまで自己流だったマナーを正確なものに正すことができ、非常に有意義だった。あいさつのしかたや名刺交換など、学生らが疑問を持っていた点については特に丁寧な指導を受けることができ、今後様々な人との交流を進める上で大きな自信となったと感じる。今回の講習は基礎的な内容が主に扱われていたため、今後は1対1での訪問といった、特にマナーが求められるような状況での対応についても学びたいと思う。

水内 良（情報科学）

人生で初めて受講した、社会人として身に付けておくべきマナーについて講習でした。今まで "丁寧そうだから" や "みんなそうしているから" と思いながら自己流でなんとなく振る舞っていましたが、改めて講義を受けると、知らないことや、間違っていた認識していたことが多くあり、驚きました。企業に就職される方は新人研修などでマナー講習があるのかもしれませんが、大学や研究機関ではこのような機会は設けられていない場合がほとんどであると思いますので、非常にいい経験となりました。

横田将志（生命機能）

今回、企画にも参加をし、企業の方との交渉にも参加することができて非常に良い経験ができたと思います。本だけではなかなかわからない自分の姿勢や服装などを細かく見ていただくことができてよかったと思います。マナーは普段の生活の中でも気をつけていかないと身につかないので、今後の生活でも今回習ったことを意識していきたいと思います。最後に企画の殆どをしてくれた澤田さんありがとう。

浦井健次（基礎工学）

HRJ 西村さんの講義は普段しない、慣れない内容が多く、その分新鮮で非常に感化されるものであった。本講義を通して、マナーもコミュニケーションも根幹は同じで「相手に伝わるような形にして伝えること」、特にマナーでは「相手を思う気持ちを伝えること」が最も大切なのだを知り、これは一朝一夕で身に着けられるものでないのだと気付いた。自身のコンディションによらず、平素から「相手を思う気持ち」を確かに伝えられるよう本講義の教えを守り、またそこから自分らしい・自分に合ったマナーを体得できるよう、「守破離」に則り日々邁進していきたいと強く思った。

進寛史（情報科学）

博士課程までの5年間で、ビジネスマナーなどのマナーを習得するための演習や講義などが無い為、本講座は社会人として必要最低限のマナーを学べるいい機会となった。

この講義は、ビジネス面でのマナーを身に着けることを主としていると感じた。研究者となる博士課程の学生が多いことを考えると、“研究者マナー”みたいなものを主として学べたらよかったと思った。

澤田莉沙（生命機能）

社会で活躍するリーダー人材を目指す当プログラムにとって、実社会で一般常識とされているマナーを学ぶことは大変重要である。今後プログラム内で増えていく社会に向けての活動のためにも、早い段階で包括したマナー講座を受講したいと思い、この企画を立ち上げた。マナーについての基本知識から実際のシチュエーションワークまでを行い、充実したマナー講座を受けることが出来たと思う。ここで得た知識を、今後の人生のなかで生かしていきたい。

ヒューマンウェアイノベーション博士課程プログラム

学生革新企画提案書

企画名	HW マナー講座
代表者	氏名: 澤田 莉沙
	所属研究室・学年: 生命機能 近藤滋研 M1
	電子メール: muc030@fbs.osaka-u.ac.jp
計画立案 メンバ1	氏名: 澤田 莉沙
	所属研究室・学年: 生命機能 近藤滋研 M1
	電子メール: muc030@fbs.osaka-u.ac.jp
計画立案 メンバ2	氏名: 横田 将志
	所属研究室・学年: 生命機能 柳田研 M1
	電子メール: masa.yokot@gmail.com
計画立案 メンバ3	氏名: 日浅 夏稀
	所属研究室・学年: 情報科学 清水研 M1
	電子メール: natsuki_hiasa@bio.eng.osaka-u.ac.jp
計画立案 メンバ4	氏名:
	所属研究室・学年:
	電子メール:
計画立案 メンバ5	氏名:
	所属研究室・学年:
	電子メール:

開催 場所	施設: 大阪大学 情報科学棟 B115
	住所: 〒565-0871 吹田市山田丘 1-5
	連絡先: http://www.humanware.osaka-u.ac.jp/access_contact/
依頼 会社	会社名: 株式会社 HRJ
	住所: 〒650-0037 神戸市中央区明石町 18 番地 1 泰和ビル
	連絡先: http://www.hrj-p.com/
日程	2014年3月12日(水) 13:00 ~ 16:00
経費	総額: 126,000 円 (内訳は別途見積書を添付)

学生革新企画の目的

次世代のリーダーを担う人材を目指す者として、社会的なマナーを身につけることは重要である。今後、本プログラムの中でも、アウトリーチ活動やアドバイザー委員会との交流などといった、社会と接する機会が増えていく中で、社会一般常識とされるマナーを学ぶことが履修生には必須となる。さらに、マナーの会得が、各々の研究室での活動や他のリーディングプログラムの学生との交流等、様々な場面でコミュニケーションの助けにもなると期待する。

本企画では、プロのマナー講師を招聘し、場に応じたシミュレーション演習を主としたマナー講座を受講する。講座という形式から、実技を取り入れた講習や疑問に思ったことをすぐに聞くことができる質疑応答を取り入れた内容となっており、独学では得られないような、実践に応じたスキルを学ぶ。

また、本プログラムの趣旨であるように、履修生が自発的に主体となって、自らの成長を促進させるための学生革新企画を計画していくといった流れを、より活性化する。

学生革新企画で期待される収穫

1. 独学では得ることのできないような、実践に応じた社会的なマナースキルを学ぶ。
2. 基本的なマナースキルを学ぶことで、自分自身のマナーに自信がもてるようになる。例えば、社会と接する活動の中で、今までマナーが足りず失礼をしてしまうのではないかとといった不安に代わって、自分のマナーに自信がもてることにより、積極的に企業の方に挨拶をしに行くことができたり、講演会後の講演者に自らアプローチをしたりといった、柔軟な対応が可能となる。
3. 今後、学生主催の企画が増えていくきっかけとなる。

スケジュール

大阪大学 未来戦略機構 ヒューマンウェアイノベーション 博士課程プログラム	
	2014年3月12日
グローバルリーダー育成ビジネスマナー(基礎編)	担当講師 西村 望希 (株式会社HRJ)
授業のねらい	授業の進め方
専門力と汎用力を兼備し、他者を尊重し他者から尊敬され、国や組織を超えて社会を牽引する国際的なリーダーにふさわしい品格高いビジネスマナーを学ぶ。周囲に安心感・信頼感を与えられるマナーを身につけ、それを通じてリーダーとして人間力と倫理観を醸成する。	講義中心ではなく実践を多く取り入れ、リーダーに求められるビジネスマナーの基礎を心と体で習得する。またロールプレイングを行うことで理解を深め、様々な状況において俯瞰力とリーダーシップを発揮し、自信を持って対応できる応用力を身につける。
授業計画	
1. オリエンテーション (15分)	・授業のねらい
2. マナーの必要性・意義	
3. グローバルリーダーに求められるビジネスマナーとは？	
4. 第一印象の重要性	
5. グローバルリーダーに必要な信頼力をあげるための5ポイント	
①身だしなみ (10分)	・清潔感 ・調和 ・機能性 ・品格 ・TPOに応じた服装 ・身だしなみ相互チェックワーク
●非言語コミュニケーションワーク (5分)	非言語表現をコミュニケーションに積極的に使うスキルを体得する。
②表情 (10分)	信頼される表情とは 表情のマネジメント
③声(信頼される話し方)・言葉遣い (20分)	・発声・滑舌練習 ・スピード・間・トーンを活かし、明瞭かつ正確に伝える ・配慮ある言葉遣いと伝え方
④態度・立居振舞 (20分)	・姿勢 ・座り方 ・歩き方 ・お辞儀 ・物の授受(名刺交換)
休憩 (10分)	
⑤挨拶 (5分)	・挨拶とは ・返事について
6. グローバルリーダー挨拶コンテスト (15分)	グループに分かれ、発表し、フィードバックすることでリーダーにふさわしい信頼感と好印象を与える挨拶を体得する。
7. ビジネスコミュニケーションマナーアップ (20分)	相手に信頼感を与えるビジネスコミュニケーションスキル(電話・メール・文書)、食事の席でのマナーを体得する。
8. 席次 (10分)	席次の基本
9. シチュエーションワーク(来客対応・訪問・自己紹介) (30分)	来客対応・訪問・自己紹介のシチュエーション 様々な状況を設定しロールプレイングで実践する。ただ正確に行うだけでなく、瞬時にいかに好印象を与え、信頼感を与えるかというリーダーに求められるレベルを目指す。 【シチュエーション1】研究室への来客対応 【シチュエーション2】企業訪問 【シチュエーション3】講演会後の演者への挨拶
まとめ・質疑応答 (10分)	

代表者・計画立案メンバが過去に開催した企画

実施年度	企画名 (参画者名)	実施内容
2013 年	Humanware Summer Camp 2013 (澤田 莉沙) (中西 惇也) (渡辺 美紀) (徳山 健斗) (中村 達哉)	履修生同士の交流と今後の融合研究を始めるきっかけを学ぶ目的のもと、二泊三日の合宿を行った。履修生の大半と 3 人の特任講師が参加をし、大いに盛り上がった。

